分科会報告〈板研・豆〉

山田正男（愛知）

7月28日(木)　9時前に会場に行くと，豆研の人は誰も居ない。時間になったので，始めることにする。（30人くらい）誰も知らない授業プランなので，とりあえず「体験してもらって，感想を聞きたい」と思っていた。問題文を参加者に読んでもらってたら，小林光子事務局長が来たので，司会をやってもらう。正男は表に出ない方が良かろうと，予想分布の集計をする。光子さんは，豆の研究会がどんなことをやってきたか，いっぱい喋りたいみたいでしたが…。

〈感想〉

◎授業書を作る研究会の話を聞けてよかったです。いろいろな無駄（？）な研究の積み重ねが，このような形になるとは，驚きでした。

◎この授業書が出来あがるのに様々なことがあったとは，そのこと自体に興味と驚きがありました。「授業書を作るというのは，そういうことだったのか」と知ることが出来て，楽しかったです。この伝統を，板倉先生がいないとしても，継いでいってもらいたいと思いました。

◎〈マメとさや〉，この名前とてもよいな。「分類」という言葉や理念が生まれる前のいろんな人々の四苦八苦が体験できるように思えて，「分類」ということに改めて感動できました。人が素直に感じてきた分類の成立史という感じです。14～15ページ（花と莢）の写真がとってもいいです。松本の田舎で，写真撮ってみますね。

◎後半の「研究物語」の話がためになりました。山田さんの手書の所が問題意識がハッキリしていて，具体的応用例がまとめられていて，とても良かった。

手書きのページ「豆研とは何だったか」を小林光子さんは読んでくれたのですが，私の字につまずいて，トギレトギレになってしまう。その時，後の方で「私が読みます」と立ちあがってくれたのが，中和子さん。中さんは「アリがタイなら倉庫」を拡大コピーしてパソコンで打ち直していて，正男文字には慣れているのです。ありがとうございました。

7月29日(金)　授業プランの体験をもう1回，ナイターでやる積りでしたが，分科会の部屋が取れたので，板研×3本を併行してやりました。小林光子事務局長はヒローコンパイして，今日は正男1人です。（15人くらい）だから，豆研の活動については，そんなに喋りません。

（感想）

◎授業書を体験して，知らないこと，へぇ～と思うことがたくさんあり，楽しかったです。研究問題には遊びじもあり，もりあがるだろうと想像しました。写真が美しい!! 実際の授業でも重要！ 授業書などのようにして出来るか，どれだけ大変か。『研究紀要』をよく読んでみようと思いました。

◎マメ，とてもたのしみにしていました。予想通り，たのしかったです。分類だけでなく，そこから広がっていく心地よさがある。研究問題は変えた。

◎生物や地学分野は「すぐにその場で実験」というのが難しいので，花などカラフルな写真や分かりやすい図があると見て楽しめるので，授業も華やかにできる気がします。

◎豆の花の写真がとても美しい。「誤解してもいい」って，いいな。しろつめ草の豆は，さがしてみます。

◎やっぱり美しい写真がいいですね。サヤに目を着けているところもいいと思いました。問12のシタン・コクタン・タガヤサンが出てくるのが唐突な感じがしました。問題文に「これらも豆の仲間です」とあれば，スムーズに入っていけると思うのですが。

『紀要』の印刷は，すべて平野孝典さんにお願いしました。カラーページをどうするのかなーと見ていたら，「本文中の写真は白黒，必要なカラーは別にする」→「すべての写真はカラーで入れる」となりました。理由は「お金をケチって，白黒にして感動できないものにしたら，本末転倒だ。自腹を切ってでもカラーにしよう」と決断してくれたからです。（カラーを白黒にして，ちゃんと印刷するには手間がかかるそうです）豆研がどんなことをやってきたか，少しは感じてもらえて，嬉しいです。